

奈良らしさ発信「奈良県コンベンションセンター」

奈良県コンベンションセンターは4月1日、近鉄新大宮駅から徒歩約10分のところにオープンした。地下2階・地上2階建ての建物のメインは「コンベンションホール」で、天井高9・9m、約2,100㎡の無柱大空間だ。可動式間仕切りで3つの会場に区切ることができ、展示会、学術会議をはじめ講演会や式典、パーティーでの利用にも対応できる。同時通訳ブースが9つあり、閣僚級国際会議の開催も可能だ。他に集会やセミナー、研修など多目的に使える機能的な会議室、約600㎡の階段型座席を備えた劇場空間「天平ホール」、開放感あふれる屋根付き屋外イベントスペース「天平広場」などがある。また書店やコーヒーショップなども入居している。

このように奈良県コンベンションセンターは、これまでの奈良にはない新しいコンセプトの施設である。奈良県の観光振興を目的とする公共施設として、県産品や県産食材を積極的に活用した「奈良らしさ」を県内外に発信するとともに、滞在型のコンベンション、国際会議の誘致を目的としている。また新大宮地区のにぎわい創出も併せて目指しており、周囲に開設される新しいNHK奈良放送センターや国際ラグジュアリーホテル「JWマリオット・ホテル奈良」とともに、地元の地域振興の役割も担っている。

オープンとともにコロナ感染症の拡大で厳しい船出となっているが、ゼネラルマネージャーの羽根仁氏は「景観と機能性が両立した魅力的な拠点であり、グレードの高い施設なので、今までできなかったコンベンションやイベントに使っていただきたいと思います。奈良に来ていただいて、新しい奈良を体感していただければ」と話している。

奈良公園の鹿と大仏様のイメージが定着している奈良だが、新しい時代を切り開く奈良らしさの魅力発信が期待されている。

奈良新聞社 企画部事業課 松本裕行



奈良県コンベンションセンターは、奈良らしさを体現したデザインと動線を考慮したデザインが特色。左手はNHK奈良放送センター(写真提供=奈良県コンベンションセンター)



コンベンションホールは様々な利用が可能な大規模平面空間だ(写真提供=奈良県コンベンションセンター)